

2024年6月20

日

名張歴史読書会 会長 高見 省三

縄文時代 旧石器時代から見る in 名張と近隣地域

縄文時代と言えばこの国宝 火焰土器や土偶

日本の古代 石器時代 縄文時代 弥生時代 古墳時代

日本列島に人々がいつ来たか

氷河期の時代には海水面が低下して、九州と朝鮮半島が陸続きの時があった

最古の証拠は4万～3万年前の東北の遺跡で発見した石器。

世界ではまだ打製石器の時代 この石器は研がれた局部磨製石器

第四紀・洪積世中期の古地理 80万年前～15万年前 と 15万年前～1万年前

ウルム氷期以降の海水面運動

中期旧石器時代 後期旧石器時代 縄文時代

旧石器時代の石器が次々に発見

関東ローム層

形成年代の区分

立川ローム層…約1万年前～3万年前

武蔵野ローム層…約3万年前～6万年前

下末吉ローム層…約6万～13万年前

多摩ローム層…約13万年前～40万年前

鬼界カルデラ 大噴火の歴史

旧石器時代後期 (約4万～1万6千年前) 磨製石器の発見

昭和24年(1949)、群馬県岩宿遺跡の関東ローム層中から槍先形尖頭器といわれる「旧石器」を相沢忠洋氏が、発見し、日本における旧石器時代の研究が始まった。

岩宿遺跡の話

世界の最古の石器

黒曜石 後期旧石器時代から使われる

旧石器時代は氷期 温暖化するのには1万5千年前

世界最古の磨製石器、落とし穴が日本に

大平山元I遺跡 青森県外ヶ浜町にある縄文時代草創期の遺跡

放射性炭素年代測定法算定で16,500年前

放射性炭素年代測定法 水月湖

最古の土器

大平山元I遺跡 16,500年前

世界最古級の土器の出現時期が日本列島の最寒期だった。(16,500年前)

現在の青森県は気温16.7度、水温15.7度で、最低だった時期は現在より7～11度低かった。

長崎県佐世保市の出土の土器

福井洞窟（佐世保市）が1万2000年前から1万年前頃

泉福寺洞窟は1万3000年前～1万2000年前

神奈川県大和市の上野遺跡は関東ローム層上部で無文土器が出土 日本での最古級（1万年以上前）

新潟県十日町市の壬遺跡で無文土器

茨城県ひたちなか市の後野遺跡 確認

帯広市の大正3遺跡出土の爪形文土器が現状では最も古く、1万4000年前 - 1万3000年前 の年代
16,500年前から土器が造られていた 世界最古級

神奈川県大和市の上野遺跡出土 無文土器に継続資料として隆線文系土器群が出土 縄文草創期

縄文時代は温暖化だった

縄文時代の前の石器時代は寒冷化だった

縄文時代の内陸部の情況

縄文時代始めの草創期はブナ、ナラなどドングリのなる落葉広葉樹林が南から徐々に北上

縄文海進が進んだ早期末から前期の約6100年前は、コナラ、クリなどの暖温帯の落葉広葉樹林が東日本の内陸部にまで広がり、さらにシイ、カシなどの照葉樹林が西から拡大した結果、中部地方を境に西の照葉樹林と東の落葉広葉樹林という現在の植物相が形成された。

その後は

気候の冷涼化によって暖温帯のカシなどとともに冷温帯のアサダ、トチノキなどが共生する植物相に植物相の変化は、植物性食料の確保に大きな変化となる。

食料の多量保存の採用と居住形態は定住化へと変わる。

縄文時代の食生活

縄文時代は基本的に食物採集に基づく生活

採集した食物を食べ、余りは穴や屋根裏に貯蔵し、必要に応じ取り出していたと考えられる。

縄文人の食生活については、摂取熱量（カロリー）からの研究が参考になる。

トチやクリ等の堅果類や ヤマイモ等の根茎類は、1kg採取中、食物となるのはその中の70-85%熱量も高く、効率よい食物であった。

一方、貝類は、可食部分は全体のたった15-25% カロリーも低く、効率が悪かった。

魚類や獣肉類はその中間の性質

縄文人の主な食物は、堅果類と根茎類を中心に、補完的に魚肉や獣肉を摂取（佐々木, 1991）。

三内丸山遺跡のゴミ捨て場からクリが沢山出土

縄文時代前期中頃～中期末の例 約5900年前～4200年前 三内丸山遺跡 日本最大級の縄文集落跡

1000年以上続いた集落 終焉は寒冷化か？ 縄文時代中期後半には500人の居住者

三内丸山遺跡は、竪穴建物、高床倉庫の他に、大型竪穴建物が10棟以上、約780軒に及ぶ建物跡、さらに祭祀用に使われたと思われる大型掘立柱建物が存在 大きさ32m×10m

北海道の黒曜石は良質で、三内丸山遺跡に出土 交易が広範囲 アスファルトは前期から使用

縄文海進時代の海進領域（斜線部）の例 関東地域 中部地域 関西地域

縄文後期～晩期 寒冷化に伴う民族移動

縄文後期に入る4,000年前ごろから冷涼化に見舞われ、縄文晩期に入る3,000年前ごろには厳しい寒冷化・乾燥化に見舞われた。世界的な寒冷化に伴い民族が移動する 環境考古学の安田喜憲による

アジア 日本 の民族移動 同時に貯蔵可能な稲作文化の受容

色々な縄文土器 比較しながら確認

「火焰型土器」国宝・新潟県 笹山遺跡出土 深鉢形土器 高さ 46.5 縄文時代中期 BC2000～BC3000

日本中に縄文文化が広がる 名張の周辺は

相谷熊原遺跡（縄文時代草創期 約 1万 3 千年前）桐山和田遺跡（縄文時代草創期）

北野ウチカタビロ遺跡（縄文時代草創期）粥見井尻遺跡（縄文時代草創期（約 12,000 ～9,000 年前）

大鼻遺跡（縄文時代早期前半 約 9,000 ～ 8,000 年前）大川遺跡（縄文時代早期初頭 約 8,000 年前）

国内最古級の土偶 出土（縄文時代草創期）

粥見井尻遺跡 松阪市飯南町 高さ 6.8 cm 1万 2 千年前

相谷熊原遺跡 滋賀県東近江市 高さ 3.2 cm 1万 1 千年前

布目ダム周辺の縄文遺跡 和田遺跡（桐山）・ウチカタビロ遺跡（北野）

桐山和田遺跡

集石炉 縄文時代早期（15,000 年前）

土器 和田遺跡（桐山）隆起線文土器とよぶ最古の土器の一種

石器 和田遺跡（桐山）草創期の石器 前 10000～前 8000 年

有溝砥石 縄文時代早期（15,000 年前）

縄文時代早期初頭の土器(撚糸文土器/大鼻遺跡 亀山市・大川式押型文土器/前平式系貝殻文円筒土器)

広瀬遺跡 山添村

縄文時代中期末 赤色顔料で塗られる土器

縄文中期末～後期の遺跡

今から 4000 年前～3000 年前

波頂上が 5 つ波状口縁深鉢系土器



名張の最古の石器

白早生遺跡 縄文時代草創期のサヌカイト有舌尖頭器 約 1 万年前

名張市の最古縄文土器

檀・柏原遺跡 垣添遺跡 縄文時代早期の大川式に類似する楕円押型文土器

縄文時代後期 土器・石器 赤目界限で生活した縄文人はその後に下川原遺跡に移動した

赤目檀遺跡 縄文時代前期末（約 5500 年前）の近畿系土器である

大歳山式土器や、中期初頭の鷹島式土器や、関東系の諸磯式土器の破片が確認

縄文海進以降の寒冷化が進んでいた。過疎化

赤目地区 辻垣内遺跡（一ノ井）縄文中期前葉の船元IV式に属す（約 4,800 年前）や、中期末や、

後期前葉（約 4,000 年前） 北白川式（中期末）縄文土器

下川原遺跡 縄文時代の集落と弥生時代の集落が重複していた

縁帯文土器深鉢 縄文時代中期～後期 4000 年前～3000 年前 近畿地方形

縄文後期の柄鏡形住居 中部山岳で中期後半発生 関東に多い
静岡県、愛知県、三重県の海岸部を飛び越えて なぜ 名張に、最西端
寒冷化に伴う人々の移動か

土器は関東系の色彩の濃い 土器の縁に 8 文字 注口土器も出土

土面の破片が出土 復元

下河原遺跡土偶 晩期

柄鏡形住居 縄文時代後期

柄鏡型住居は縄文時代中期後半に中部山岳地帯に発生し、後期に関東地区西部丘陵地帯に柄鏡型
石敷住居が作られすぐに衰退します。今度は千葉県房総半島に石敷きの無い柄鏡型住居が造られた
神奈川県平塚市上ノ入岡崎小学校敷地 縄文後期 の例 千葉県の例

寒冷化や温暖化が繰り返されるのが縄文時代 海や川の水位の変動も起こる。

縄文晩期に入る 3,000 年前ごろには厳しい寒冷化、乾燥化、水位も低下していく。

人々は低地に移動して行く。中部関東から房総に移住 敷石が敷石無しに変化

中部・関東地区にはやった柄鏡形住居が、なぜ名張に 気候変動と、人口増加対応の移住か。

関東地方で流行した土器も下河原遺跡に出土 縁口部に 8 の字土器

中部地方から、寒冷化に対応するため、名張まで食料とともに渡ってきた。ということが考えられる。

埋甕 (うめがめ)

関東平野や中央高地で見られる習俗で、縄文後期には中央高地では衰退し、関東平野では継続した。

乳幼児の埋葬施設や胞衣壺と考えられる。

長野県富士見町唐渡宮遺跡 埋甕に画かれた人物画土器

柄鏡形住居に女性が入り埋甕をまたぐ⇒再生を祈る

後産の胎盤等を入れたか気を受け命を授かる女性

丹生に入った下河原遺跡の土器

丹生の成分は三重県多気郡多気町が産地 (勢和村)

丹生川上神社など中央構造体は丹生の産地

邪馬台国の時代から魏 (魏志倭人伝) に献上した。

女人高野・丹生山「神宮寺」 三重県多気郡多気町丹生

丹生大師に水銀を作った物

丹生の使用例 (古墳時代) らんびき

中川原遺跡 積田神社近く 縄文中期末から後期 初頭の土器類

中戸遺跡 赤目相楽 縄文時代の遺構や遺物が出土 竪穴住居 縄文時代後期 (初頭～前半)

右の土器は縄文時代は中期～晩期

辻堂遺跡 縄文時代晩期末の土器が出土 口縁部分に接して突帯を貼り付けた物 口縁部分より少し

下に突帯が張り付いている物 突帯上に指頭で O 字形刻み、へらでの刻み、素文の三種類

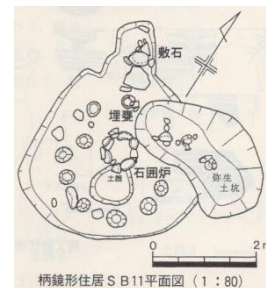
また、弥生時代前期新段階の弥生土器が 1 点

縄文晩期末と弥生前期の土器が同一遺跡出土は、弥生時代過渡期を考える上で重要

稲作の始まりを示唆している。

突帯文土器 辻堂遺跡 縄文晩期末の土器 弥生式前期前葉の土器と共に出土

奥出遺跡 突帯文式土器 長原式 縄文晩期末



長原式土器 大阪市平野区 長原遺跡出土

大阪で水稻栽培がはじまったころの土器 土器の外側には、米や粃が押しつけられた跡

圧痕レプリカ法 弥生時代前期前葉土器と共伴出土

移動と共に食料は中部から全国に広がった栽培種 「大豆」と「あずき」

九州北部から灌漑式稲作が開始 紀元前10世紀後半

突帯文土器にコメの圧痕土器が発見 圧痕土器は土器の小さな窪みに、歯医者で使われる青いかたどりのようなのを中に入れて圧痕を顕微鏡で確認・・・レプリカ法

福岡市板付遺跡で水田遺構や木製工具を発見

突帯文土器が東に伝搬

奥出雲で前11世紀の縄文時代晩期後半に出現 近畿で前10世紀後半に兵庫県口酒井遺跡でイネの圧痕が見つかり、前9世紀後半に伊勢湾地域に拡大

縄文時代後期に稲作が始まる 弥生時代の始まりか BC1000 今から3000年前

福岡県雀居遺跡（ささい遺跡） 板付遺跡近く 福岡空港を作るときに発見

土器に付いていたススを分析 放射性炭素年代測定法で紀元前10世紀

弥生時代早期は紀元前10世紀後半 3000年前 従来は紀元前300年

放射性炭素測定で700年遡りか 賛否両論で中間派の間をとって500年遡り

紀元前800年が弥生時代の始めとされ議論継続

弥生人の食生活 ドングリがトップ 次がイネ、モモ、マメ類

後に奴国となる範囲

最初の弥生集落出現は、板付遺跡や雀居遺跡など、那珂川・御笠川中流域の低い台地上の集落

稲について考えよう

稲の種類

ジャポニカ米 温帯ジャポニカ米 熱帯ジャポニカ米 インディカ米

核DNA配列の ps-id (のりしろ) ジャポニカ コシヒカリ

熱帯 6c7a か 7c6a のタイプ 温帯 6c7a のみ インデカ 8c8a 6c9a 等 6c7a や 7c6a は出てこない

温帯ジャポニカ米 熱帯ジャポニカ米 比較

温帯ジャポニカ : 水田稲作 高度な技術と経験と道具 人数多い

熱帯ジャポニカ : どこでも適応 人数少ない 焼き畑も

縄文時代遺跡 青森県田舎館村・高樋Ⅲ遺跡

水田遺跡出土の8品種をPCR法で増幅し電子泳動でバーコード模様を調査 温帯ジャポニカは出ず 7c6a 熱帯ジャポニカが出た(約2, 1000年前) 縄文人が持ち込んだ熱帯ジャポニカ

守山市青年会議所が、小学生と作った熱帯ジャポニカ

米の遺伝子

植物細胞には核、ミトコンドリア葉緑体 葉緑体に注目 母親の遺伝子しか相続しない

そのDNAは同じコード繰り返しがあり そのつなぎ目がSSR(シンプル・コード・リピート)と

呼ばれ8つの変形版がある a,b,c,d,e,f,g,h と呼び 中国には8種(長江下流が起源地)

韓国には b を除く 7 種 日本は a,b 少しの c

中国長江下流の起源地から直接日本に少し伝わる a,b 朝鮮からも a のみが少し

b 遺伝子種子の伝来 a、b の遺伝子は d～h の出土がないのは、種は少ししか伝来されていなかったと考えられる。沢山伝来していれば d～h の出土もあるはずですが。少ない人が稲と一緒にやってきたか、縄文人が持ち帰ったか、弥生遺跡からの中国・長江下流域から日本に直接伝搬。

唐古鍵遺跡と池上曾根遺跡の炭化米からもこの b 遺伝子が発見。弥生時代中期（2100～2200 年前）の遺跡 a, や少しの c 遺伝子種子の伝来

中国から直接か韓半島経由か

しかし朝鮮半島の水田稲作に関しては朝鮮南部約では 2500 年前の水田跡が松菊里遺跡が最初とされている。日本は 3,000 前に福岡県雀居遺跡から C14 で発見

朝鮮半島のさらなる発見は今後あるかは判らない。

名張の縄文時代後期から弥生時代の遺跡

中戸遺跡と赤目相楽

縄文時代の土器は 4,000 年前 後期初頭～晩期

福田 k2 式（縄文後期前半）岡山県と北白川上層式（縄文後期）（京都大学構内）の中間で
広瀬土賡 40 段階 山添村広瀬の土器

またこの遺跡は弥生に続く弥生時代の方形周溝墓は弥生時代中期中～後 特徴は四隅が途切れる

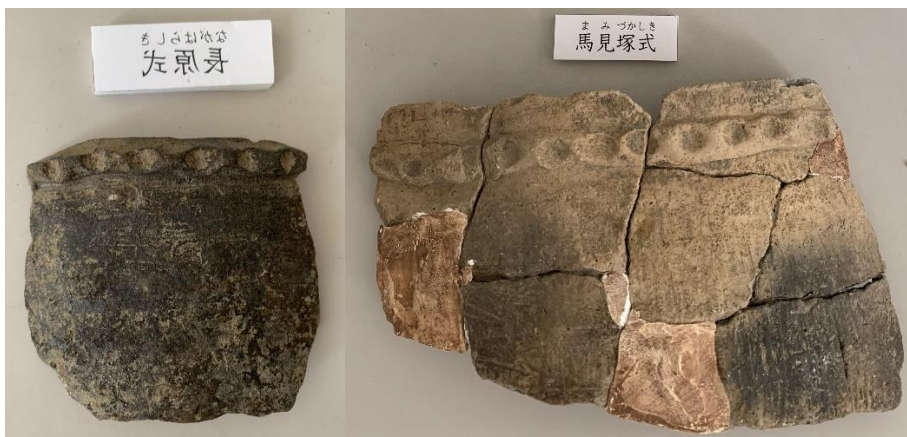
土山遺跡から稲作最初の谷間に水田あと

土山遺跡 水神平式土器

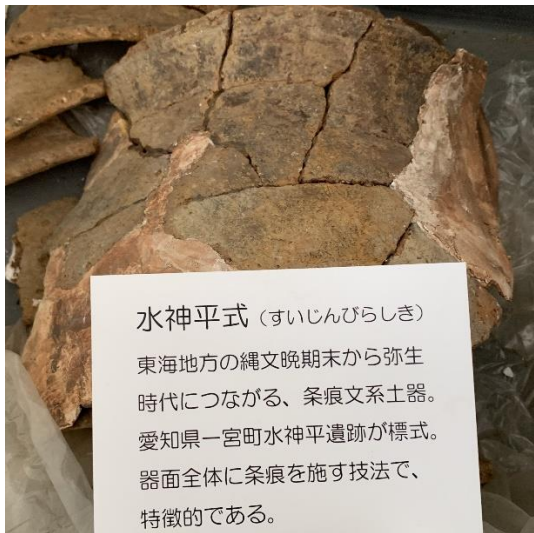
いよいよ名張も弥生時代が訪れた

名張に遺跡はまだ沢山あります。この辺りで縄文時代とします。

辻堂遺跡 突帯文式土器



土山遺跡



水神平式 (すいじんびらしぎ)
東海地方の縄文晩期末から弥生
時代につながる、条痕文系土器。
愛知県一宮町水神平遺跡が標式。
器面全体に条痕を施す技法で、
特徴的である。

